

# さあ、今年もみんなですり掘りだ!!



説明を行う(株)アグリコミュニケーションズ津軽の宮田代表取締役



認定子ども園第一・第二さつきの皆さん



五所川原商業高等学校の生徒がインターンシップに訪れ園児の手伝いをしてくれました



収穫作業を終えた子ども園津軽野の皆さん



大収穫だった今年のサツマ芋



沢山の芋を見せる園児



いろいろな形のサツマ芋を見せる子ども園長橋の皆さん

※農業委員会だよりは  
こちらのQRコードから  
ご覧いただけます。



10月11日から16日まで、市内こども園の園児たちが市農業センター敷地内の畑で、春に苗を定植したサツマ芋の収穫体験が行われました。

サツマ芋の収穫体験は市農業委員会が農業や食に興味を持ってもらうと、毎年実施しているもので、今年で21年目を迎えます。

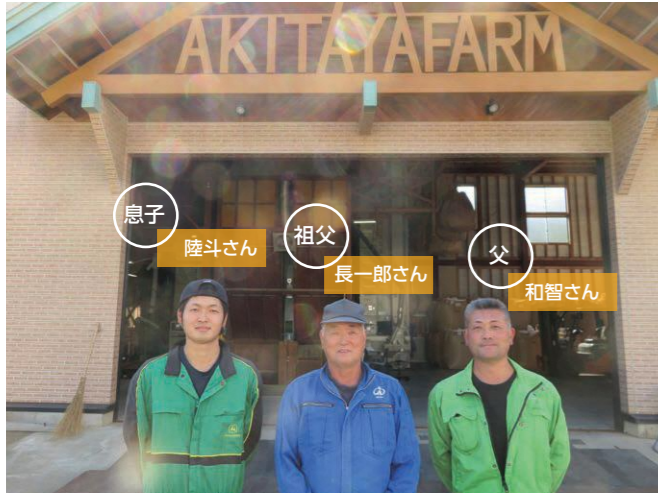
収穫初日、朝の大雨により、その日の収穫体験は中止となってしまいました。翌日以降にこども園や福祉施設の利用者がそれぞれ収穫することとなりました。

また、翌日は農業委員会の総会と日程が重なってしまったため、例年園児たちの芋掘りの補助作業をしている農業委員たちの参加が出来なくなってしまうりましたが、代わりに農林政策課にインターンシップに訪れていた五所川原商業高等学校の生徒3人が、園児たちの芋掘りを手伝ってくれることとなりました。

園児たちは、ツルの根元に大きなサツマ芋がいくつもいくつも付いているのを見て、とても喜んでいました。

収穫したサツマ芋は、各子ども園に持ち帰り、園の給食で天ぷらにするなどして食したり、おやつの時間に大学芋にして食べるそうです。

## 次世代につなぐ親子三世代農家 (有)秋田谷ファーム



息子 陸斗さん 祖父 長一郎さん 父 和智さん

市内市浦で親子三世代、農業を営んでいる(有)秋田谷ファームは主食用米、飼料用米、大豆と複合経営を行っている法人です。寒冷地において収量確保・大規模経営の実現を果たし、農業者の高齢化で次々に集まってくる農地を一手に引き受けています。

取材に訪れた日、和智さん(代表取締役)は、ほ場で稲刈りを行い、父の長一郎さんと長男の陸斗さんは作業場で精米作業をしていました。

秋田谷ファームの作業場の倉庫は最大500本のフレコンバックが収納でき、既に9月末日で200本のフレコンバックが山積みとなっていました。

長一郎さんは、孫の陸斗さんに対し『昨年営農大学を卒業し就農した当初は色々教えたが、今年2年目となり、何も教えなくても自分一人で作業をするようになった。』と成長を喜んでいました。

陸斗さんは『幼い頃から、父の跡を継ごうと思っていた。自分で育てた米が実のを見るとやりがいを感じる。自分は運搬や草刈り、冬の作業や大豆を手伝っている。稲刈りや経理は全部父が行っており、尊敬している。将来父のようにになりたいと思っている。プレッシャーはないが、地域の皆さんの米を預かっているので責任を感じる。』と語ってくれました。



稲の刈り取りをする和智さん フォークリフトに乗る陸斗さん

## 地産地消を楽しむ会

五所川原市地産地消を進める会では、地元農産物で郷土料理を作り、味わう調理体験会を実施します。

- 開催日時 令和5年12月5日(火) 10:00~14:00
- 開催場所 中央公民館 3階 調理室
- 参加料金 500円(※当日徴収します。)
- 持ち物 エプロン、三角巾
- 人数 先着20名まで

【申し込み先】農業委員会(内線2883)

## 高アミロース米「あおりっこ」を使用した 米粉シフォンケーキ

シフォンケーキは「あおりっこ」100%で、米油やきび砂糖を使用し、材料にこだわりました。



10月26日、市内金山にある「米パン工房い〜ね(いいね)」(山中小百合代表)において高アミロース米「あおりっこ」を使用した、シフォンケーキのお披露目会が開催され、各関係機関の方が参加しました。

世界的な小麦価格の上昇で国内の米粉の需要が高まっていることから、国は米粉専用品種の作付けを推奨しており、これを受けて県産業技術センターが米粉に向く新品種「あおりっこ」を開発したもので、今年2月に農林水産省から品種登録出願公表されました。

「あおりっこ」は県産米の「まっしぐら」に比べ、アミロースの量が9%程高く、パンに使用するとふっくらした食感になり、加工品の開発が期待されるとともに収量が多く、水田の有効活用と生産農家の所得向上が期待されています。

山中代表は、自ら県産業技術センターに問い合わせ、試作用の種粉を譲り受け栽培・収穫しました。

今回の試食会では、自ら栽培した「あおりっこ」を工房に併設している製粉機で製粉して、「あおりっこ」100%のシフォンケーキのしっとり・ふわふわ、「赤〜いりんご」のデニッシュ、食パン2種類、パケットの試作品を5種類作成しました。

試食会は山中代表が試作品について説明した後、関係者に試食してもらい、最後に感想をアンケートに記載してもらうという形式で行われました。

参加した佐々木市長は、『デニッシュの「赤〜いりんご」の色がとても良い。酸味も生かされ、生地がザクザクして歯ごたえがある。シフォンケーキは米粉の特性のしっとり感、もちり感が出ていて好きな人は好きだと思う。私は個人的にしっとりの方が良いと思う。』と感想を述べました。

山中代表は『昨年新しく導入した水蒸気の出るオープンのおかげでレシピの幅が広がり、シフォンが焼けるようになった。米粉100%で作れるということが長年の夢だった。』と語りました。

米粉シフォンは、11月9日より曜日限定、個数限定で発売中です。

【問い合わせ先】米パン工房い〜ね(いいね)定休日:日・月・火・祝日  
TEL:0173-30-1035営業時間10:00~15:00 <売切れ次第終了>

## 五農生、今年もGAP取得 目指し公開審査

9月15日、県立五所川原農林高等学校では、コメとリンゴの「グローバルGAP」の取得を目指し、関係各者に審査会を公開しました。

「グローバルGAP」とは世界共通の認証規格のことで、同校では国際感覚を身につけた農業者育成のため平成27年より取り組んでいるものです。

当日は、派遣された審査員が同校敷地内のリンゴ畑と水田等を巡回しながら、生徒たちに「ケガをした際の救急箱は用意されていますか。」などと質問していました。

今回の審査の結果は、年内に公表される予定です。



審査員から質問を受ける五所川原農林高等学校の生徒たち

## 農業委員会で猛暑による被害を視察

9月12日、農業委員、農地利用最適化推進委員、ごしよつがるJA職員と市職員が、8月10日からの記録的な猛暑により被害を受けたリンゴ園の状況を確認するため、市内園地5カ所と加工用リンゴ集荷施設を視察しました。

各地区の園地では、ジョナゴールドなどの主に中性種の品種が、連日の猛暑により、収穫前に果実が熟して自然落下したり、強い日差しにより直射日光が当たった果実は「日焼け」が生じてリンゴの皮の色が白っぽくなったり、オレンジ色に変色して赤くならないという被害を受けていました。

自身もリンゴ農家を営んでいる阿部喜代志委員は『加工にも出荷できないリンゴが3割以上あるのではないかと委員たちに現状を説明しました。』

農業委員会の森義博会長は、『猛暑被害は防ぎようが無い被害だ。近日中に佐々木市長に被害を受けた農家の方々の現状を報告しに行きたい。』と述べました。



被害を受けたリンゴ園地を視察する農業委員と農地利用最適化推進委員



落実で加工用となってしまうリンゴを視察する委員たち



焼けて皮が白くなったリンゴ



焼けて茶色になったリンゴ



袋がかけられたまま落下



猛暑により被害を受けた農業者の皆様にご心からお見舞い申し上げます。収入保険についてのお知らせはこちらからご覧いただけます。(だより106号3ページ目)

## 子実用コーンで田畑輪換

10月11日、市内藻川にある(有)青い森産のほ場で春に播種した子実用コーンの刈り取り作業が行われました。

今年は、猛暑により2週間ほど刈り取りが早いそうです。(有)青い森産の代表取締役福士裕朗さんは、友人から子実用コーンの栽培に取り組んでみないかと誘われ、昨年からは作付けを始めたそうです。

福士代表は、『昨年は、8月6日から大雨で大豆が浸水し被害を受けた。子実用コーンは根を深く張るため、ほ場の排水性が高まり、子実がほ場にこぼれ落ちることで、翌年大豆を植えると大変よく実り、肥料の削減にもつながる。昨年は1ha、今年は1.7ha付けしたが、少しずつ増やしていきたい。』と話しました。



コーン刈り取り専用のアタッチメントを装着した普通型コンバイン。鋭く尖ったヘッダーで倒伏した茎も刈り取り、内部に付いているローリングカッターで莖葉部分は下に引き抜かれて除去され、雌穂のみ脱穀部へ送られて行くしくみとなっている。

## 児童が「赤〜いりんご」を収穫



10月10日、市農業センターにおいて五所川原市立南小学校3年生の児童24人が「赤〜いりんご」の収穫体験を行いました。

皮だけでなく果肉まで赤い「赤〜いりんご」は葉や枝まで赤く染まっているのが特徴の加工に向けた酸味のあるりんごで市の特産品です。

南小学校の学区内には、「赤〜いりんご」の並木道があり、春には赤く色付いた花が咲き、秋には「赤〜いりんご」の実が成り、市民にとってはなじみ深い場所となっています。

担任の山田智子先生は、3学年の総合的な学習で五所川原市の事についてもっとよく知って欲しいと、市の特産品である「赤〜いりんご」の収穫を子どもたちに体験させたいとの思いから今回の収穫体験を実施する運びとなりました。

当日、(株)アグリコミュニケーションズ津軽の宮田健代表取締役から「赤〜いりんご」の歴史や栽培過程、もぎとり方について児童に分かりやすく説明がされた後、児童が収穫体験を行いました。

今回の収穫体験について桜庭碧斗さんは『リンゴの葉は自然に落ちていたと思っていただけ「葉取り」作業を収穫前にしているということを知りました。赤い色は青いところもあり、りんごを回してあげて、赤く色づくようにしていると知りました。』と感想を話してくれました。

## 税制面に大きな優遇 税 農業者年金に加入しませんか!

農家のみなさん、農業者年金に加入された方は税制面で大きな優遇措置を受けられることをご存じでしょうか。

農業者年金に加入して、その年に支払った保険料の全額(最高額1人当たり年間80万4千円)が、所得税・住民税・復興特別所得税の「社会保険料控除」の対象となります【表】。

経営主が生計を一にする配偶者や後継者が加入者となっている農業者年金の保険料を支払った時には、その合計額が経営主の所得から控除できます。

受け取った年金は、税制上、公的年金の控除対象なり、65歳以上の方であれば公的年金等の合計額が110万円までは全額控除となります。

また、一般の預貯金の利子には20%の税金がかかりますが、農業者年金の運用益は非課税でその分年金原資が積み上がります。

まだ加入していない農業者の方は、是非農業者年金に加入をご検討ください。

表【保険料支払いによる節税効果】

課税対象所得	税率	加入者の支払った保険料の節税額(年間)		
		政策支援加入	通常加入	
		月額1万円の場合	月額2万円の場合	月額6万7千円の場合
195万円以下	15.1%	1万8千円	3万6千円	12万1千円
195万円超330万円以下	20.2%	2万4千円	4万8千円	16万2千円
330万円超695万円以下	30.4%	3万6千円	7万3千円	24万4千円

【問い合わせ先】農業委員会(内線2882)

## 総会の開催予定

○令和5年第13回総会  
12月12日(火)15:00～  
市役所2階 B・C会議室

○令和6年第1回総会  
1月12日(金)15:00～  
市役所2階 B・C会議室



※過去の議事録はこちらのQRコードからご覧いただけます。

※法令により総会等の会議は公開されております。また、会議録は農業委員会事務局にて閲覧できます。

【問い合わせ先】農業委員会(内線2881)

## 各種申請の締切り日

- 農地法第4条申請、第5条申請
  - ・農地を農地以外のものとして使用する場合  
例：住宅・車庫・店舗建築  
毎月25日締切り(25日が市役所閉庁日の場合は前開庁日)
- 農地法第3条申請、農用地利用集積計画の同意、競売・公売買受適格証明願
  - ・農地を農地として貸借・売買する場合、競売・公売の入札に参加する場合  
毎月25日締切り(25日が市役所閉庁日の場合は前開庁日)
- あっせん申出
  - ・あっせんにより農地を売買する場合  
毎月5日締切り(5日が市役所閉庁日の場合は前開庁日)

【問い合わせ先】農業委員会(内線2884、2885)

## 農地情報 令和5年11月現在

下記の農地について、受け手を探しています。価格等の条件は交渉できる場合もあります。農地の位置図もありますので興味のある方は、農業委員会までお問い合わせください。



※その他の情報はQRコードからご覧いただけます。

番号	整理番号	区分	農地所在	地目	面積(a)	圃場整備有無	利用状況	10a当たり希望価格
1	358	売渡貸付	金木町芦野	畑	10.19	無	休耕畑	応相談
2	359	売渡貸付	金木町喜良市坂本	畑	77.26	無	葉たばこ	応相談
3	360	売渡	野里山ノ越	畑	21.89	無	休耕畑	応相談
4	361	売渡	沖飯詰帯刀	田	64.70	無	田	応相談
5	363	売渡	米田八重菊	田	27.79	無	田	応相談
6	364	売渡貸付	脇元赤川	田	93.75	無	田	応相談
7	365	売渡貸付	金木町芦野	田	34.33	無	畑	応相談

※農地を売りたい方・買いたい方、貸したい方・借りたい方はご相談ください。

【問い合わせ先】農業委員会(内線2885)



## 稲わら活用 Win-Win モデル事業 稲わら収集出発式

9月29日、市内唐笠柳のほ場で『稲わら活用Win-Winモデル事業』の稲わら収集出発式が行われました。当日は農業者やごしよつがるJA、市職員などの関係者が参加しました。

この事業は稲わら焼却の防止及び有効活用を目的とし、市が貸し出すミニロールペーラーでモデル地区内の稲わらを収集し稲わらの焼却防止に取り組むもので、一昨年度より実施されたものです。

今年度は、市内の唐笠柳・米田地区に水野尾地区・稲実地区をモデル地区とし、市ではロールペーラー5台を収集希望者に無料で貸し出し、地域において稲わらを収集する担い手の育成を図るものです。

一戸治孝副市長は、『市民の健康と環境を守るために、この取組を拡大していきたい。』と意欲を示しました。

この事業で収集されたミニ稲わらロールは、市農林政策課で畜産農家や野菜の栽培活用される希望者に販売しております。

【問い合わせ先】農林政策課(内線2515)

## 耕作証明書 ご希望の方へ 予約の(お願い)



窓口に来所される際は、手続きでお待たせしないよう、あらかじめ下記担当までご一報いただき、来所くださるようお願いいたします。予約がなくても随時受け付けますが、窓口が混雑している場合は、お客様をお待たせすることもございますので、皆さまのご協力をお願いします。

- 受付時間 8:30～17:15まで
- 農地の転用に関する事 (内線2884)
- 農地の貸借、売買、あっせんに関する事(内線2885)
- 農業者年金に関する事 (内線2882)
- 農業経営改善計画に関する事 (内線2885)

～手続きは、お近くの農業委員会でもできます～  
農業委員会金木支所(内線3112)  
農業委員会市浦支所(内線4019)